



議会だより

つなまち

2017年10月20日発行

No.206 Tsunan-Town

9月定例会 9/7~9/14

会計決算・補正予算・条例改正	02
一般・特別会計決算討論	03~05
9月議会採決結果	05
一般質問(町政を問う)	06~11
陳情・意見書	11
委員会レポート	12~15
町民登場 この人に会いました	16



津南町消防団消防演習(津南町総合センター)

津南町議会

検索

町のホームページでも議会だよりをご覧になれます。
発行：新潟県津南町議会 責任者：議長 草津 進

平成29年第3回議会定例会は、9月7日から14日までの8日間の会期で開かれました。10人が一般質問に立ち、専決処分、補正予算、町営住宅条例改正、平成28年度決算認定などを審議しました。提出議案、陳情2件などを賛成多数で可決し、定例会を閉会しました。

平成28年度 会計決算

会計名	歳入	歳出	差引
一般会計	80億1,726万円	76億4,239万円	3億7,487万円
国民健康保険特別会計	12億9,355万円	12億0,156万円	9,199万円
後期高齢者医療特別会計	1億1,282万円	1億0,993万円	289万円
介護保険特別会計	17億6,068万円	17億1,339万円	4,729万円
簡易水道特別会計	1億5,937万円	1億3,575万円	2,362万円
下水道事業特別会計	4億0,165万円	3億7,169万円	2,996万円
農業集落排水事業特別会計	2億9,692万円	2億7,065万円	2,627万円
病院事業会計	16億2,232万円	16億6,995万円	▲4,763万円

平成29年度 補正予算

〔一般会計〕

補正額	4,519万円
総額	70億4,169万円
主な歳入増	
総務費国庫補助金	752万円
災害復旧費県補助金	630万円
過疎対策債	3,170万円
主な歳出増	
災害復旧工事	900万円
ソオパーク整備工事	433万円
観光施設修繕費	421万円
町立病院出資金	240万円

〔国民健康保険特別会計〕

国庫補助金増により、財源変更をする
補正増減はなし

〔後期高齢者医療特別会計〕

補正額	30万円
総額	1億1,364万円
備品購入費	30万円

〔介護保険特別会計〕

補正額	3,471万円
総額	19億3,658万円
国庫支出金等の精算償還金	2,806万円
一般会計繰出金	664万円

〔病院事業会計〕

資本的支出	
補正額	480万円
総額	7,488万円
医師送迎車購入	480万円

条例改正・制定

津南町営住宅条例の一部を改正し、制定する。

要旨

大船団地建て替えにともない別表を改める。(別表は省略)

- ①建設年度を昭和55年から平成29年度に改める
- ②名称を大船団地から大船町営住宅に改める

全員賛成



平成28年度 決算討論

平成28年度決算に対して各議員が賛否の意見を表明し、その理由を述べ認定するか否かの激論を交わします。

一般会計決算

反対討論

藤ノ木浩子

反対理由の一つは、町民の医療確保に対する町長姿勢である。看護師確保は町政の最優先課題と位置づけ取り組むべきと訴えてきたが、「もう確保できない」がさきにある。町長自ら先頭に立って、医療介護のあり方を模索する姿勢も行動も見られない。町民がここで暮らし続けるために、医療の確保は不可欠であり、医師、看護師確保は必須条件である。二つ目に、この間自公政権のもと人間らしく働く雇用のルールがこわされてきた。その一つが臨時職員の雇用形態だと思う。一般会計では臨時職員が123名、正職員とともに公務を担う臨時職員数が上回っていて、不当な労働環境の中で働いている。

労働条件の改善こそ、格差と貧困をただす待ったなしの改革ではないか。三つ目に農業立町の津南町は、将来も営める農業施策に声を上げるべきだ。最後に若者に子育て支援策はすごいと実感頂ける施策が必要である。

賛成討論

石田タマエ

平成28年度は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と「津南町人口ビジョン」に基づいた実施初年度である。財政面では、歳入歳出ともに前年比増額となった。今後交付税等の伸びが見込めない中、年々自主財源比率が向上してきている。強い町づくりでは、認証米作付け補助の継続や畑作物の付加価値を高め安定した農業経営へと期待する。また「火焰型土器と雪国文化」が日本遺産に認定され、来る東京オリンピックで世界へと大きく期待される。優しい町

づくりでは、少子化対策として、各種助成制度を継続し、産み育てやすい環境へと歩んでいる。障害者施策では、「いこいの家」が新築されたことや、通所交通費補助が始まり、自立した生活により近づく。一方で、今後の課題として津南病院の経営改善が急がれる。津南病院が担うべき役割、身の丈に合った病院規模等を見極める必要がある。より生活環境の充実を計り、誰もが安心して住みつづけられる町づくりを目指して賛成討論とする。

国民健康保険特別会計決算

反対討論

藤ノ木浩子

国保の都道府県単位化に向けて、国保料の引き上げをしてきたが、そのやり方に反対してきた。28年度国保加入者の実態は、年金、無職の方が44.5%、非正規雇用が多い被用者が31.7%で合わせると76.2%加入者の多くは国保料の負担能力が高くないことが言える。一人当たりの国保料の推移で見ると、22年63,910

円が28年78,430円での間14,520円も引き上げられた。給与年収400万円の4人家族の国保料で見ると27万500円。県内の自治体と比べれば低い方と言えるが協会けんぽ加入者の保険料と比べると72,800円高くなっている。加入者の実態からも負担軽減が必要だ。国は国保に占める国庫負担を減らし続けている。その分が加入者と自治体の負担となっている。適切な国庫負担が投入されなければ、高い国保料は抑えることはできない。滞納者に対する制裁措置で、無保険状態の住民をつくり出している。これは止めるべきだ。

賛成討論

村山 道明

年々増え続ける医療費傾向の歯止めには、おのずと限界がある。平成21年度以降、一般会計繰入を主体とし、財政調整基金繰入を減額しながらも、保険料を最低水準に維持してきたことは、十分評価されている。決算から、一般分他に比べて前年度対比から言えることは、被保険者数の減や総医療費額、及びこの保険者負担額の減額が事業状況詳細から

は、外来収益、入院収益とも大幅に減少し、かつてない厳しい決算となった。

28年度は休床した療養病床の活用を検討し、また地域と密着した医療体制の確立のため、「地域連携室」や「訪問看護ステーション」を立ち上げたところである。この様な中、職員は赤字の減額に積極的に取り組む姿勢がうかがえ、結果として、当初予測の赤字額より2千3百万円少なくなってきた。これは院長のリーダーシップのもと、全員が損益意識をもち行動した結果である。しかし、5億円の赤字補てんをこれからも続けて良いわけではなく、その対策のため、町長より諮問を受け、現在スピード感をもって病院審議会のメンバーが中心となり検討しているところである。

今後は病院の地域間の連携と特色をだした病院体制を確立し、病院スタッフ全員が、この難局を打破できるようなおし、本病院事業会計決算に賛成する。

平成29年9月議会採決結果

議案番号	件名	表決状況												採決結果	
		半戸義昭	村山道明	石田タマエ	風巻光明	恩田稔	栗原洋子	中山弘	津端眞一	大平謙一	河田強一	藤ノ木浩子	吉野徹		桑原悠
承認第3号	専決処分の承認について（平成29年度津南町一般会計補正予算（第3号））	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第45号	財産の取得について（任雪車）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第46号	平成29年度津南町一般会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第47号	平成29年度津南町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	可
議案第48号	平成29年度津南町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第49号	平成29年度津南町介護保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第50号	平成29年度津南町病院事業会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
議案第51号	津南町営住宅条例の一部を改正する条例の制定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
認定第1号	平成28年度津南町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	可
認定第2号	平成28年度津南町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	可
認定第3号	平成28年度津南町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
認定第4号	平成28年度津南町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	可
認定第5号	平成28年度津南町簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
認定第6号	平成28年度津南町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
認定第7号	平成28年度津南町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
認定第8号	平成28年度津南町病院事業会計歳入歳出決算の認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可
陳情1	全国森林環境税の創設に関する意見書採択に関する陳情	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	可
陳情2	学費と教育条件の公私間格差是正にむけて、私立高等学校への私学助成の充実を求める意見書の採択に関する陳情	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	可

●採決結果の記載方法（可＝賛成多数で可決等の場合 否＝賛成少数で否決等の場合）

●表決状況の記載方法（議員個々の賛否：賛成＝○・反対＝×・欠席＝欠・除斥＝除：議長は表決に参加できません）

町政を問う!!

一般質問(10議員)

- | | |
|---|--|
| <p>1 半戸義昭 議員 (6 ページ)</p> <p>1. 老人クラブ対策は
2. 大学進学率の低い要因は</p> <p>2 風巻光明 議員 (7 ページ)</p> <p>1. ごみ焼却の方向は自立か連携か
2. NGP の指定管理は</p> <p>3 津端眞一 議員 (7 ページ)</p> <p>1. 小学校・保育園の統合時期は</p> <p>4 中山 弘 議員 (8 ページ)</p> <p>1. 津南町中心街の今後は</p> <p>5 大平謙一 議員 (8 ページ)</p> <p>1. 新しい政策は
2. 津南農業の将来像は</p> | <p>6 村山道明 議員 (9 ページ)</p> <p>1. 農作物減収への支援策は
2. 病院経営改善策は</p> <p>7 藤ノ木浩子 議員 (9 ページ)</p> <p>1. 臨時職員の待遇改善策は</p> <p>8 栗原洋子 議員 (10 ページ)</p> <p>1. 苗場山麓第二地区償還金軽減策は</p> <p>9 桑原 悠 議員 (10 ページ)</p> <p>1. 事務事業評価は
2. 公共施設にかかる将来世代の負担は</p> <p>10 恩田 稔 議員 (11 ページ)</p> <p>1. 東京オリ・パラに向けて取り組みは
2. 農産物の輸出は</p> |
|---|--|

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

老人クラブは地域の第3セクター

町長 現在、町老連への加入数は19団体926人である。10年前の平成18年では32団体2221人、千人以上の減少になっている。老人会組織がなくなっていくことは集落の活力低下を招く要因になっている。一方で組織のない地域でも、いきいきサロンなどを

町長 現在、町老連への加入数は19団体926人である。10年前の平成18年では32団体2221人、千人以上の減少になっている。老人会組織がなくなっていくことは集落の活力低下を招く要因になっている。一方で組織のない地域でも、いきいきサロンなどを

老人クラブはなぜ衰退したか



半戸義昭 議員

同じ趣味の場、コミュニティの場を得ている。町老連でも、はつらつクラブと名称を変えて会員増強のために、尽力いただいている。町としても引き続き支援していく。

大学進学率の低い要因は

町長 県では大学進学率が全国平均より低い位置にある。さまざまな要因があると思うが経済的理由で進学をあきらめることがあってならないと考えるが、町の実態を問う。

町長 進学率では都市部で高く地方では低い。地方には私立の大学が少ない、仕送りが多くかかるなどが要因の一つである。昨年の卒業生81名中大学へ進学した人は34名、県平均より低い位置にある。



敬老式、いつまでもお達者で

可燃ゴミの処理は自立か連携か



風巻 光明 議員

清掃センターでの ゴミ焼却の方向は

問 平成30年以降焼却炉の修繕などで多大な費用が必要だ。自立か十日町市との連携か方向は出たのか。

町長 わが町が自立を続けるという観点に立った時、生活のバックエンド対策を他に委ねることが良いのか、費用面も含め考えがまとまり次第、議会とも相談していく。

ニューグリーンピア津南の 指定管理者制度は

問 指定管理者制度は公の施設で町民の多くが平等に利用できる施設に対し行うものだ。ホテル事業はその趣旨に全くそぐわないが。

町長 本制度にすることはコモンセンス、今の賃貸借契約

はアブノーマルと考えている。特にリニューアルを考えた場合、町単独財源で成し遂げることは全く考えられない。

町長は津南病院開設者 として方針を

問 5億円の赤字に対し、今後の津南病院のあるべき姿をどう描いているのか。

町長 自治体特有の医療環境に配慮しつつ、地域住民に信頼され、必要な医療を安定的に継続して提供できる病院経営を行っていくことである。

問 診療科をスリムにした場合、慈恵医大との関係にヒビが入らないか。

町長 慈恵医大に行き、話をしたことはないが、トップと繋がる人と懇意にしており大きな問題はない。



可燃物焼却炉

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

小学校統合と保育園統合の時期は



津 端 眞 一 議員

津南小学校へ2校統合した 場合、施設設備は充分か

問 小学校2校が津南小学校に統合された場合、施設設備は充分か。

教育長 現在、津南小学校増築工事を行っており、2校が津南小学校へ統合されても施設設備とも充分だ。また、2年生が現在2階の教室から1階に移るため、より活動しやすくなる。なお、上郷地区の説明会で保護者が保育園、小学校同時統合を望んでいると分かり、アンケート調査を行い平成29年度中に方向を示したい。

問 未満児入所が増加している保育園の早期2園化を望むがどうか。

教育長 0歳児入所が増加するなか、保育士の確保に苦慮

しており、できるだけ早く進めたい。2園化により、さらに保育の質を高めたい。

問 2園化による建設費用はおよそいくらか。

教育次長 およそ6億円を予定しており、過疎債を充当したい。



津南小増築工事

津南町中心街の今後は



中山 弘 議員

国道沿いの景観整備は

問 第4次総合振興計画後期計画（平成18年）から引き続いているが、経過と具体案はあるか。

町長 国道沿いの景観整備については平成17年の自律に向けた町づくり報告書に店舗改修が記載されている。平成23年度から32年度までの総合振興計画に街路灯の更新が追加され、平成29年度老朽化のためLED化工事の補助制度を創設した。店舗改修は所有者や商工会、大割野商工協同組合などと話し合っている。今後関係者と意見交換を考えている。

問 信濃川火焰街道に位置づけられ、街路灯に表示板がついているが、灯を「かりん」から「火焰型土器」にし、街



大割野中心街

路樹などを植えてはどうか。
町長 いずれも冬期間の管理が難しく、街路樹なども以前から研究しているが、地元の協力がなければできない。
問 空き店舗の貸出斡旋と改修補助の応募や進捗状況はどうか。また商店主の自助努力だけではなく、商工会や各団体、行政一体で取り組まなければならぬが、今後の対策は。
町長 町内では人口減少により空き家、空き店舗が年々多くなっている。店舗の貸し借りの情報や相談がない要因は、住居兼用の店舗であることが考えられる。現在補助事業はないが利活用を検討していく。

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

人口減少に歯止めをかける対策を



大平 謙一 議員

今までの政策ではない新しい取り組みは

問 企業も地元の人材で安定した会社経営を考えている。JA津南町も農家数の減少に危機感をもっている。町は民間と連携し、対策を話し合っているのか。

町長 町では総合振興計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、子育て支援や担い手育成、定住環境の整備など人口対策を総合的にしている。人口対策に特化した話し合いはしていない。

津南町農業の将来像は

問 国の政策は強い農業を目指すと言いつ、農地集積の方向である。集積が進むと地域は崩壊すると考えているが、町長の考えは。

町長 国の集積目標率は80%、県は90%である。津南は現在69.7%と集積は進んでいる。しかし集積だけを考えているのではなく、兼業や小規模農家も重要であると認識している。

問 兼業や中小規模農家の補助はなく助成は偏っている。どう小規模農地を守るのか。

町長 集落内や家の周りの農地も重要であり、県に耕地整理の要望をしている。

問 今の町は情勢が上向いていると思うか。

町長 企業は人手不足で仕事量は手一杯だ。農林業販売額は47億円と健闘している。子育て環境、インフラ整備など今後政策の結果が出てくると思っている。



子どもはみんなの宝

低温長雨の減収被害支援が必要では

農作物減収農家へ 助成が必要では



村山道明 議員

問 5月からの低温長雨続きで、農作物への影響が心配だ。アスパラなどの減収が深刻である。水稻は今後登熟障害で品質低下が心配だ。町は農業経営の救済支援、助成をすべきだ。後継者育成につながると思うがどうか。

町長 アスパラガス収量は前年対比80.4%、販売額にして12.3%減となった。スイートコーン収量は前年比75.7%、夏秋トマト収量は73.9%となっている。水稻は、登熟日照不足で品質低下が懸念される。救済支援や助成は、全体的な支援ではなく、今後出荷状況や販売状況など情報収集に努め、収穫が終わった段階で必要な判断

を適切にしていく。

病院経営改善策は

問 本来策定すべき「新改革プラン」はいつ頃か。また、外来患者のための診療送迎バスの運行が必要だがどうか。

町長 早期に改善策を含めた「新改革プラン」を策定する。送迎バスの運行は、新たな町の公共交通システムの構築に向け、通院のあり方も含め議論し検討を行っていく。



米検査場

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

臨時職員の待遇改善を

勤務実態に見合った 処遇の確保を



藤ノ木浩子 議員

問 地方自治体で働く臨時、非常勤職員の待遇について、制度改正が行われた。その目的は勤務実態に見合った処遇を確保することにある。臨時職員は6力月に1回雇用を打ち切られ、再雇用を繰り返し働いている。雇用が切られる月は17日雇用で3〜4日の空白期間を置いている。改正では「退職手当、社会保険料を負担しないように、空白期間を設けるのは適切ではない」としている。改善を求めるがどうか。

町長 改正の主な内容は、会計年度職員制度を創設し、任用、勤務規律等の整備を図り、任用条件の厳格化を行い、必要な移行を図るものである。

会計年度職員の任用、勤務条件の検討に着手したい。

問 空白期間は改善されるか。

総務課長 会計年度職員にした場合、その任用は1年なので17日雇用はなくなると考えている。

問 17日雇用の月は、社会保険料を国民年金と国民健康保険に切り替えているが、国の通知では「任用の予定が明らかである事実が認められる場合、被保険者資格を喪失させることなく取り扱う必要あり」となっている。通知に沿って対応すべきではないか。

町長 社会保険料は年1回切り替えを行っているが、会計年度職員への移行を検討する中で、今後対応をしていきたい。



年々要求が高まる未満児保育と保育士確保

国との太いパイプでさらに詰め寄れ



桑原 悠 議員

地主を圧迫する小松原 工区償還金軽減策は

問 小松原工区は比較的大きな農家が耕作し、荒地拡大が防止できている。しかしその賃借料は所有者が支払う償還金を大幅に下回っているのが現状だ。償還金滞納の実態も見過ごすことはできない。「10a 1万円以上の償還など厳しい」との農家の声がある。農家の立場に立ちこの現状をどう認識しているのか。国との太いパイプがあるならさらに詰め寄り具体的な方策を考えてほしいがどうか。

町長 小松原工区は津南町分26ha、旧中里村分39haのは場で多品目を栽培し、維持管理が大変である。また農家の高齢化で受託側の農家も労力に

限界があることや収益性にも課題があり賃借料も低くなっている。滞納者の徴収対策には懸命に対応しているが、なかなか成果が上がっていないと認識している。現在行われている利子の軽減対策を平成33年度以降も継続するよう、機会あるごとに国県に要望している。

問 本来償還金は、作物の生産あってこそその償還だ。国県は作物選定の指導責任がある。国の進める大規模化や6次産業化では津南の暮らしは守れないと思うがどうか。

町長 関係機関と連携し、栽培技術の確立と6次産業化については所得確保の一つの手段として進めたい。



農地の維持管理が大変

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

一つ一つの予算の効果測定を



桑原 悠 議員

事務事業評価が予算 編成に機能してきたか

問 人口1万人を切り、財政は厳しい。一つ一つの事務事業を評価し、継続するかしないか、または効果を高めるかどうかを判断し、予算に反映させる必要があるのでは。

町長 町債の発行や基金の取崩しを図るなど厳しい状況が続いている。事務事業評価のみならず、政策を再評価する必要はある。

問 町証米制度への補助事業、医学生等修学資金貸与事業などを見ると、評価が十分なまま進められてきたのではないか。
副町長 同じことをやっているわけではなく、反省を踏まえながら新たに事業をやってきている。

将来世代の負担が 増加しているが

問 公共施設などが老朽化し、資産がかえって負担になっている。規模の適正化と今後かかる維持・建替え更新費用はどう捻出するか。

町長 国県の補助金などがあれば活用し、安定した自主財源を確保することが課題だ。公共施設などは社会的意義、実績を評価し、廃止や売却も含め検討していく。

問 上村町政では、公共施設等はほぼ残し、むしろ宝山荘のように増やす方向で進めてきたのでは。住民一人当たり資産も増えたが。

町長 投資という考えで進めてきた。どう活かすかこれからだ。



木島平村の農政を見学

東京オリ・パラに向けて取り組みは



恩田 稔 議員

津南町の取組みは

問 2020年東京オリンピック・パラリンピックは、世界中の視線が日本に向かう絶好の機会である。競技会場やキャンプ地といった直接の関係がなくても、全国でこのチャンスを活かそうと知恵を出し取り組んでいる。町の考えは。

町長 オリンピック種目である重量挙げ女子の全日本チームの合宿地でもあり、今後さまざまな機会においてスポーツの交流を推進したい。また、信濃川火焰街道連携協議会においては、聖火台に火焰型土器をと強く要望活動を続ける。

農産物の輸出は

問 安全に関わる農産物の国際認証（Gギャップ）を取得することが、日本の農産物の



地方創生につなぐ
地域活性化推進首長連合総会

のブランド化につながり、農産物の輸出拡大にもなる。今年から取得に向けて取り組まない、オリンピック選手に提供する食材が間に合わないことから、国は取得にかかる費用を積極的に支援している。農業政策の大転換、内需の減少、地域間競争の激化など従来通りの経営では難しくなる。オリンピックを契機に輸出を考えなければならぬのではないか。

町長 現在進めている香港ハウス導入により、香港政府とのつながりを作り進めていく。

地域振興課長 Gギャップの取得には、費用も手間もかかることから、国全体でも進んでいない。今後は生産法人や若い農業者に考えを聞いてみたい。

Tsunan-machi Gikai Dayori 町政を問う!

陳情・意見書

陳情1

全国森林環境税の創設に関する意見書採択に関する陳情

山村地域の市町村による森林吸収源対策の推進や安定した雇用の場の確保などの取組みは、地球温暖化防止のみならず、国土の保全や地方創生等にもつながるものであり、そのため市町村の財源の強化は喫緊の課題である。森林、林業、山村対策の抜本的強化をはかるための「全国森林環境税」導入の一日も早い実現を求め、意見書の採択を求める。

反対討論

栗原 洋子

森林は木材の供給源であるとともに、中山間地域の維持と国土の保全など公益的機能を有し、そこで営まれている林業は地域社会を支える重要な産業である。

森林の保全と林業の振興には国の役割が重要であることは言うまでもない。しかし国の森林整備予算は2008年度から2015年度の8年間だけでも422億円も削減され

ている。これは国家予算からの拠出を削減し、都市、地方を通じて国民に広く負担を求め、税に上乗せする形で国による徴収が想定された税である。C02の排出量に応じた負担となつている既存の「地球温暖化対策税」の拡充を図ることで必要な財源を確保するよう求めるものである。

この立場から、国の責任を投げ捨て庶民に広く負担を求め「森林環境税」の導入には賛成できない。

↓賛成多数で可決

発議案

意見書提出について
↓賛成多数で可決

陳情2

学費と教育条件の公私間格差是正にむけて、私立高等学校への私学助成の充実を求める意見書の採択に関する陳情
↓賛成多数で可決

発議案

意見書提出について
↓賛成多数で可決

国に意見書を提出しました。

委員会レポート

Commission Report

総文福祉常任委員会

県内視察

◆と き 6月30日(金)

◆と ころ 小千谷市役所
小出病院

◆内 容

① 小千谷市

子ども・子育て支援事業

県内でも先進的な取組をしている「子育て支援」について担当課より説明を受けました。市では公立保育園が11園と認定こども園が2園あり待機児童はないが入園率は90%



小千谷市での研修風景

で、特に未満児などの一時預かり事業に力を入れ「ファミリーサポートセンター」が設置されています。また障がい児の保育にも力をいれ、市単独で保育士を加配し、送迎はボランティアが行っています。

② 小出病院

地域医療体制について

70年前に県立病院として地域の中核病院の役割を果たしてきましたが、魚沼圏域の医療再編により、高度専門医療は魚沼基幹病院へ引き継ぎ、プライマリケア病院として再スタートしました。

布施院長より地域住民と密着した今後の医療について講話を頂きました。十日町病院の吉嶺院長の出向く医療に対し、当病院は何でも気軽に来てもらえる病院を目指しています。例えば「住民こそ医療資源である」をモットーに病院を学校にするなど、「地域医療魚沼学校」を開き「ナイトスクール」や「オープンスクール」で住民がうまく医療を活用して健康を守り、地域

を守っていくことです。また、学生や研修医が学び、未来の医療人の育成にも力を入れていきます。



小出病院内「魚沼学校」

視察を終えて

津南町でも働く女性が増え、仕事と子育てを両立させ、子供も親も安心して生活できる環境づくりが必要ですが、小千谷市に学んだことを十分参考にし、「やさしい町」づくりを推進してまいります。また津南病院では経営が非常に厳しい状態ですが、住民と医療が一体となり、サービスの向上を図りながら今後のあるべき姿の追求を行ってまいります。

(担当 風巻光明)

県外視察

住民とその暮らしに

寄り添った病院づくり

◆と き 7月13日(木)～14日(金)

◆と ころ 埼玉県滑川町
埼玉県ときがわ町

J A 長野厚生連

佐久総合病院

◆内 容

① 佐久総合病院

地域包括ケアシステムについて

地域包括ケアシステムを中心テーマに研修に行ってきました。佐久総合病院グループは地域包括医療を担っています。農村地域の医療を守るため、「地域の住民要望」に沿った仕事に心がけ、病院診療だけでなく、保健、医療、福祉が一体化した役割を地域の中で果たす方針のもと「生きがいと安心のある地域づくりをめざす」を目標理念としていました。

在宅医療を担っている地域ケア科の訪問診療は、内科だけでなく、神経内科、皮膚科など自宅において専門医療が受けられます。訪問看護は、小児から高齢者まであらゆる病気を対象にし、多職種との連携をとりながら、在宅生活を支

援しているそうです。開設当初から地域住民とその暮らしに寄り添った病院づくりが実践されていきました。

② 埼玉県滑川町

子育て支援（子ども医療費無料化、給食費無料化実施）について

③ 埼玉県ときがわ町

子育て支援と学校リフォームについて

ときがわ町では、地元の山林で育てた木材を公共施設等にふんだんに使用しており、教育現場では子供たちの育ちに良い環境となっています。



住民とともにつくる佐久の地域医療

視察を終えて

佐久病院では、理念、目標に向かっていかに住民の暮ら

しを支えるか、その姿勢に学ぶものがありました。また、ここに住む住民との文化活動、病院づくりの取り組みも見習うべき視点と強く感じました。

また、ときがわ町の木質校舎を参考にして現在増築計画中の津南小学校に反映できるように教育委員会と協議いたしました。

（担当 藤ノ木浩子）

津南町交通安全協会との懇談会

◆とき 8月22日（火）

◆ところ 町文化センター

◆内容 会長より、津南町は毎年死亡事故が発生しており（本年は未発生）、事故の約8割は脇見運転による事故とのことでした。運転者個々の注意が事故を減らすこととしました。

活動の現状と課題について、毎年1回各支部ごとに講習会を開催、女性部では町内の保育園児に講習しています。今後老人会等も声掛けしてほしいとのこと。

意見交換では、高齢者の事故対策について、運転操作ミスが多い、視野が狭くなって

きている、夕方の事故が多い、など意見が出されました。また、免許証の返納は十日町管内は年間100件以上ほどあります。交通手段がなくなり、特に山間地域では買い物等にも出かけられなくなり、公共交通整備が不可欠です。デマンド方式の拡充、地域巡回タクシーの導入等が必要との意見でした。



幼児交通安全教室

懇談会を終えて

運転者も歩行者もお互いに細心の注意をすることで交通事故は減少する事を再認識するとともに、改めて公共交通の充実が必要と感じました。

（担当 河田強一）

産業建設常任委員会

県内視察

インバウンド先進地視察

◆とき 6月19日（月）

◆ところ 長野県野沢温泉村 上越妙高駅前複合商業施設

◆内容 インバウンド取り組みについて伺いました。野沢温泉村の年間観光入込客数は70万人、うち40万人は、スキー客の入込です。

野沢温泉村はインバウンド協議会を立ち上げ、17軒の宿がインバウンド部会として活動中でした。主な活動は、長野新潟スノーリゾートアライアンス（白馬、志賀高原、野沢温泉、妙高高原、JR東日本）に加盟し、10年前から海外でプロモーションを展開しています。毎年、スキーシーズン終盤の3月からオーストラリアを中心に現地の商談会、旅行会社の訪問を行い、スキー客の予約は8月までとしました。さらにシンガポール、ヨーロッパなどにプロモーションをかけ、スキーシーズン前にはほぼ予約一杯です。午後には北陸新幹線上越妙高駅前西口の複合商業施設（フルサット）を視察しました。

コンテナハウスを活用して扇状に並べ、ラーメン屋、居酒屋などを展開したまちづくりです。行政には一切頼らず地元、政府系金融機関などの融資で運営していました。

視察を終えて

海外との交流維持は温泉地であればこそ待っているだけではなく、自ら進んで交渉する大切さを学びました。一夜の結果が出るわけがなく、長年の努力が実を結び現在多くの外国人が来ています。また良いことばかりではなく地元との折り合いの難しさもあるようです。

(担当 津端真一)



野沢温泉村観光協会との懇談会

県外視察

◆とき 7月19日(水)～20日(木)

◆ところ 石川県輪島市

◆内容 「白米千枚田」景観保全事業と朝市通りを視察してきました。千枚田はそのままでは田んぼの耕作は維持できるものではなく、保持の仕組みを聞いてきました。棚田は日本全国にあります。白米千枚田を売出し維持するために市民と行政が知恵を出し合い能登の里山里海を世界農業遺産に認めさせ、能登全体の中の観光資源として位置づけていきました。さらに保持のためのオーナー制度や一年を通して観光客を呼ぶ方法で、畔のライトアップなどと景勝保全基金を設立し官民一体となって維持が図られていました。

視察を終えて

また、朝市は一般の人が魚貝や野菜、工芸品など思い思い持ちよって開かれていてとても素朴であり、朝市が観光客に愛されていると感じました。

千枚田は思っていたより小規模でしたが、誘客の基本がここにあるように感じました。今ある財産を有効に利用し、市民総参加で行なってい

る感がありました。朝市においては年配者の生きがいにもなっているようでした。

(担当 大平謙一)



白米千枚田 風景

**国営総合農地開発事業
苗場山麓第二工区内
(小松原工区) 視察**

◆とき 8月22日(火)

◆ところ 苗場山麓小松原

◆内容 津南郷土地改良区役員と標高1000mに位置する小松原工区で説明を受け、大谷内ダム貯水池・中深見源内山調整池を踏査しました。小松原圃場面積は65haで十日町所有者24名(39ha)・津南町所有者15名(26ha)です。平成4年からダイコン・キャベツを作付けますが、萎黄病

にかかり、現在は津南(ソバ・ニンジン・ダイコン・ユリ・シヤクヤク)十日町(ブロッコリー・アスパラガス)が主であります。十日町においては17haを農事法人新潟育苗センターが作付けています。第二工区償還計画(予定)によると平成29年度国への償還額は約1億7,167万円、償還賦課金は約5,400万円です。平成30年度～43年度償還額は10a当小松原では約14万4千円です。



小松原工区耕作状況

視察を終えて

圃場まで10km以上あり遠く、標高差140mの畑は段差があり作業が大変と感じました。償還金は返済期間



病気が多発した野菜

が長く、世代を越えた返済は今の時代にそぐわないと思います。

(担当 中山 弘)

稲作・畑作状況調査

◆とき 9月1日(金)

◆ところ 町内各所

◆内容 JA津南町営農部の案内で午前は水稲の生育状況、試験栽培をしている多収性早生品種つきあかり、県が力を入れている新之助及び津南ブランドというべき魚沼コシヒカリを見ながら説明をうけました。作柄については、8月の天候不順により生育が遅れ気味になり、病害虫の被害による減収がありますが、

品質低下は少なく平年並みの作柄ということでした。今後の天候次第という印象でした。午後は、沖ノ原、赤沢山、天上原、相吉山、中子山をまわり、アスパラガス、雪下ニンジン、キャベツ、野沢菜、スイートコーンなどの作柄をみてきました。春からの異常気象の影響でどの作物も昨年に比、かなりの減収とのことでした。畑作農家の収入減が心配されるところです。

調査を終えて

水稲・畑作どれも、これから生き残りをかけて、産地間競争がし烈になることが予想され更なる取り組みが必要と感じました。

(担当 半戸 義昭)



収穫がすすむ所平(10月5日現在)

県に要望書提出

本町は主産業である農業と観光を基本とし、高齢化に対応した福祉施策の充実等、地域住民のより良い環境・町づくりに努力しています。

町づくりに必要な活力ある経済・社会活動を支えるために最も必要な社会基盤の整備は、住民の悲願であり、特別豪雪地域における雪の克服と安全安心を確保する道路・河川整備や急傾斜地の安全対策には強い期待を寄せています。議会は町と協議を重ね、8月23日に新潟県十日町地域振興局へ要望書を提出しました。

〔要望事項〕

- 1 一般国道 117号の整備
(1) 灰雨バイパスの早期着工
- 2 一般国道 405号の整備
(1) 見玉く大赤沢間の安全対策の促進
(2) 大割野地内(旭町通り)歩道整備の促進
- 3 主要地方道小千谷十日町津南線の整備
(1) 卯之木地区拡幅改良の早期完成
- 4 一般県道加用今新田津南停車場線の整備
(2) 寺石地区拡幅改良の早期着工
- 5 一般県道中深見越後田沢停車場線の整備
(1) 赤沢く中子間の拡幅改良の促進
(2) 所平地区拡幅改良の早期着工
- 6 一級河川金掘川の河川整備
(1) 貝坂集落内護岸整備の促進
- 7 一級河川信濃川の河川整備
(1) 巻下地区護岸嵩上げ整備の早期着工
- 8 一級河川新田川の河川整備
(1) 大井平地区護岸整備の早期着工



現場写真「旭町改良工事」

町民登場

この人に会いました…

いしだ ゆういち
石田 裕一さん (結東)

今年の4月から「津南町地域おこし協力隊」になり秋山郷地区を担当し、結東集落に住んでいます。自然豊かな秋山郷に一度遊びに来て下さい。

今年の夏は草刈りのお手伝いを何度かさせていただき、刈払機にも慣れてきました。そして畑は集落のみなさんのおかげで、たくさん農作物を収穫することができました。ジャガイモ、ツルムラサキ、枝豆、オクラなどなどです。冬の雪掘りも初めてですので楽しみにしています。来年は結東の石垣田でお米作りに挑戦する予定です。

8月・9月は津南町の各集落でお祭りがありましたが、高齢化が進みお祭りが開催できない集落がいくつかありました。それでも神社の掃除や周辺の草刈りをし、集落のみなさんは頑張っています。



そんな中、招待されご馳走をいただき、言葉にできないくらいうれしかったです。この地域の文化や伝統を守っていくために、自分に何が出来るのか最近はそのような事ばかり考えています。



大谷内ダムにて津南郷土地改良区と

夏が来たのか来ないのか、お天道様を拜むことが少なかった今シーズンでした。「せつない」のは海水浴場だけではない、わが町には膨大な稲作畑があり、作況により町経済が左右される。信濃川は水が澄むことなく香魚(アユ)の香りを嗅ぐこともなかった。日本ジオパーク認定の津南町は過去何度も異変をくぐりぬけてきたはずだが、人災か天災なのか判断ができない地球の気候は、やはりお天道様しか知らないものである。海外のハリケーンや日本で今まで発生しなかった竜巻が「フレア」のせいだとしたら、改めて東の空に手を合わせお天道様に願ってみよう。(中山)

編集後記

